

永山地区の地域包括ケアシステム

～永山モデル～



令和元年8月30日

1

今こそ！わたしたちの底力 豊かに暮らす永山モデル

H28の地域包括支援センターの永山商店街への移転計画をきっかけに 永山地区ワークショップを開催

高齢化が進む永山地区において、見守り支援、居場所、生活支援、介護予防などを展開していく方法を自治会、NPO、市民団体などと連携し、検討



UR・JS

- ・在宅生活における高齢独居や認知症不安者の増加

地域のかかりつけ医

- ・エレベーターの無い団地の高齢者が何年も外に出てない事例がある。
- ・地域で支援が必要な人に支援が行き届いていない



永山団地自治会

- ・これまで支えてきた住民の高齢化

NPO／市民団体／名店街

- ・名店会・NPO等が行っている交流・居場所づくり等のマンパワーの限界
- ・各団体が単体の活動だけでは地域の高齢者を支えきれない。ネットワークが必要。

見守り相談窓口を併設する地域包括支援センター

高齢者見守り相談窓口

1階

東京都の高齢者見守り相談窓口事業を実施。

- なんでも相談(総合相談)
来所による相談
- 実態把握訪問
自宅を訪問(約4800世帯)
- 見守り活動
見守りサポーター、見守り協力員の養成
- コミュニティづくり
商店街のイベントへの参加

保育園で利用する
フェルトブロック作り



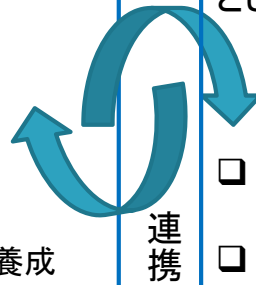
地域包括支援センター

2階

市内5カ所の地域包括支援センターのうち、最も高齢化の進むエリアを担当。

商店街にあるNPO、企業との連携の要として地域づくりに寄与。

- 総合相談 (延べ10,982件)(H30)
- 介護予防の啓発 74回
TFPP(8)、近トレ立ち上げ支援(36)、
介護予防教室(30)
- 地域のネットワークとしての永山地域連絡会の開催



連携

今こそ！わたしたちの底力 豊かに暮らす永山モデル

永山地域連絡会の取組

- 地域包括支援センターの呼びかけにより、定期的に連絡会を開催。
永山連絡会メンバー:自治会、名店会、民生児童委員、保育園、UR、社協など
- 永山モデル かわら版の発行
- 見守り活動・・・見守りサポーター、見守り協力員の養成
- 居場所・通いの場・・・商店街の中の居場所、サロン 15団体(うち近トレ5団体)
地域介護予防教室「永山イキイキ体操」
- 「食」の居場所づくり・・・「カレーの日」開催 100円 110食
- お助け隊・・・永山団地自治会「サポートセンター」設立 料金30分以内300円

～永山商店街 地域活動拠点の一例～

地域包括支援センター &
見守り相談窓口



NPO法人 福祉亭



ネコサポステーション
(ヤマト運輸株)



くらしのサポートサービス

永山地域の医療の現状等について 齊藤内科呼吸器科医師へのヒアリング結果(概要)

1. 診療の概要

- ・1988年(約30年前)に、永山団地内に診療所を開設
- ・診療科目 内科 呼吸器科
- ・診療所での診療のほか、在宅訪問診療を実施

2. 医療の現状

- ・毎日60-80名を診察。80%以上が70-90代の方である。
- ・30年前と比べ貧困が増えている印象。生活保護受給者の数が非常に増加。
- ・訪問診療は、土曜の午後、諏訪・永山地区を回り、10数人担当。ケアマネの勧めで他の訪問診療に移る方もあり、入れ替わる。
- ・エレベータなしの団地で、ヘルパーが毎日出入りするが、自身は長年外に出ていない在宅患者は多い。

3. 連携

- ・中部地域包括支援センターとの連携はできている。
- 例) 体調が優れない方を往診につなげてもらう、入院が必要と思われる方の相談
- ・中部地域包括支援センターのスタッフがとても頑張っている印象。独居の住民が倒れたときは、2人がかりで病院に連れ出すなどの取組をしたと聞いている。
 - ・地域の方の見守りはボランティアであり、柔軟だが、限界もある。地域包括支援センターが中心になるかたちがよいのではないか。
 - ・永山地域連絡会には、ほぼ毎回参加している。